

令和4年度 学校自己目標

鈴鹿市立鼓ヶ浦小学校		学校教育目標 「知・徳・体 調和のとれた学校」 めざす学校像 「学校が楽しい、明日も来たい」と思える学校 めざす子ども像 (1) 自分も他者も大切にすること 「心豊かな子」 めざす子ども像 (2) 自ら学び、考えて行動する子 「学ぶ子」 めざす子ども像 (3) 地域に愛着と誇りを持つ子 「鼓の子」				
重点目標	評価項目と具体的な手立て	到達度のわかる目標(指標)	達成状況	成果〇と課題▲	協議会委員からの意見感想等	今後の改善点
確かな学力を育む(学習活動)	学力向上の推進 ・学力向上の核となる児童を中心に据えた授業スタイルを構築する。	・全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックにおいて、全国平均や県平均以上をめざす。→県比較 6年:算-9.4, 国-17.8, 理-14.1 5年:算-6.6, 国1.4, 理4.1 4年:算19.6, 国1.2	B	○わかる喜びを実感できる授業づくりに関して、授業中の子どもの姿から研究を進めてきたことで、学習に対する意欲は向上した。 ▲県と比較し、大きく下回っているものが多い。学習の積み重ねを意識し、確実に基礎学力が定着するよう学習を進めていきたい。	・6年生の基礎学力が心配。中学校に行ってから困らないように基礎学力をしっかりとつけておきたい。 ・家庭学習への保護者の関わり方にも課題があるのでは。 ・授業実践をしていると、しっかりと聞いているが理解できていないように思う。 ・ICT機器を使った宿題を増やしていただき、基礎学力を高められたらと思う。 ・宿題はしているが、復習はしているのだろうか。 ・子どもの勉強への関心を高めていけるとよいのでは。 ・6年生になってから学力が落ちたのか。それまでの流れを知りたい。 ・ゲームをする時間が多くて、学習する時間が減ってきているのでは。 ・わからないとネットで調べることが当たり前になっている。辞書等で調べることがない。	■今後も、子どものわかる喜びを大切にしながら、研究を進めていきたい。 ■学習は積み上げなので、低学年からの系統性を図り、どの子にも身につけた力を実践したい。 ■学習ボランティアさんとお話しながらはげみやサマースクールなど補充学習を来年度も行っていく。
	学習規律の確立 ・主体的・対話的で深い学びがある授業を確立する。	・授業中しっかりと話を聞き、積極的に考えようとしている」と答えた児童の割合80%以上 →86.6%	A	○昨年度より1.3%高くなった。 ▲考えようとすることはできたが、自分の考えを積極的に発言しようとするに課題が残る。	・言葉を知っていても理解できていないことがある。 ・家庭では高学年になると教えることが難しい。中学年までしっかりと自分で学ぶ力をつけてあげることが必要。	■自分の考えを発言できる機会を増やすためにも、学習内容に応じてペアやグループでの話し合い活動を取り入れていく。
	家庭学習の習慣化 ・その子に合うステップアップ学習の推進と、家庭学習・生活読書強化週間の定着を図る。	・「学校は宿題や課題を適切に与え、家庭学習の充実が図れるよう工夫している」と答えた保護者の割合80%以上。→94.5%	A	○昨年度より3.9%高くなった。 ▲家で進んで宿題をやっている」という児童の割合が昨年度より3.4%低くなっている。宿題の内容について検討していく必要がある。	・子どもたちの使いなすスキルが上がっていると感じる。 ・インターネットの危険性も伝える必要がある。 ・見ることができるサイトを制限する必要があるのでは。 ・これからの時代ICT機器の活用を多用することはよいことだと思う。 ・ICT機器を使った授業は一人ひとりの考え方や解答がよくわかる。 ・子どもは親の想像以上に器用に使っている。パスワードを知られて乗っ取られた話を他所で聞いたので、使い方は家庭で教えていかなければならない。 ・POを使うことで漢字が書けなくなる等、マイナス面もある。 ・今の子どもたちは小さい頃からICT機器が近くにある状況。これからはなくなることはない。どう共存していくかが課題。	■学習・生活習慣強化週間での、自主学習・家庭学習の意識付けや中学年まで、ステップアップ学習を子どもたちに意識付けし、家庭学習の充実を図りたい。 ■3学期の強化週間から、テーマ学習を設け、学習以外のスクリーンタイムを0にする日を1日設定する。保護者にも啓発を行いながら、学習や読書の時間を作ってほしい。
確かなICTの活用(ICTの活用)	授業中の活用 ・ICTを効果的に活用し、学習意欲を高めるとともに、学力の定着を図る。	・授業の中で1日1回はICT機器を活用する。	A	○ICT機器の効果的な使い方について研究を進めることができた。 ○子どもたちがICT機器を使ってスムーズに学習できるようになった。 ▲意欲を高めることはできたが、ICTの効果的な活用による学力の定着につなげることが難しくなった。	・子どもたちの使いなすスキルが上がっていると感じる。 ・インターネットの危険性も伝える必要がある。 ・見ることができるサイトを制限する必要があるのでは。 ・これからの時代ICT機器の活用を多用することはよいことだと思う。 ・ICT機器を使った授業は一人ひとりの考え方や解答がよくわかる。 ・子どもは親の想像以上に器用に使っている。パスワードを知られて乗っ取られた話を他所で聞いたので、使い方は家庭で教えていかなければならない。 ・POを使うことで漢字が書けなくなる等、マイナス面もある。 ・今の子どもたちは小さい頃からICT機器が近くにある状況。これからはなくなることはない。どう共存していくかが課題。	■ICTを効果的に活用ができるように、教員向けに他校の実践や活用方法を共有していく。 ■ICTあきりに授業にならないよう、「子どもたち」にどのような力をつけさせたいか」を基準に考えた授業づくりを行う。そのための1つの学習ツールとしてICTを活用していきたい。
	個に応じた学習 ・ICT機器に親しみながら個に応じて学習することで学力を向上させる。	・家庭への持ち帰りを週に2回以上行う。	A	○家庭への持ち帰りについては、週2回の持ち帰り、長期休暇など、概ね達成することができた。 ▲使い方も、ネットモラル等についても学習を進める必要がある。	・ICT機器の効果的な使い方について研究を進めることができた。 ○子どもたちがICT機器を使ってスムーズに学習できるようになった。 ▲意欲を高めることはできたが、ICTの効果的な活用による学力の定着につなげることが難しくなった。	■端末機器の取り扱いの確認を定期的に行う。また、ICTサポートチームを活用して情報モラルについての学習を進めたい。 ■端末機器の取り扱いについて、学校と家庭で連携していく必要がある。
開かれた学校づくり(地域連携)	地域連携・地域ぐるみの教育 ・地域人材を活用したキャリア教育を推進する。	・児童アンケートで、「将来、なりたい職業や仕事がある」と答えた児童の割合80%以上 →76.9%	B	○日常的に地域のボランティアの方々の力を借りて教育活動を行っている。 ▲昨年度より2.2%低くなっている。	・地域に住む夢をかなえた人の話を聞くと、夢が叶うことも現実的なことだと感じるのでは。 ・社会とだけだけ目を向けられているのか。 ・朝は小さい声でも挨拶できても、集団下校のときに挨拶が元気がない。 ・地域で子どもたちと会ったときに元気に挨拶してくれる。その時のおしゃべりが楽しみ。 ・自分に自信を持ってなったり、はっきりとした目標を持ってなったりする子が昔より増えたように感じる。	■地域の方々と一緒に活動する行事、生活科や総合的な学習で教えていただいたりする体験を通して、子どもたちは育つ。地域の方と連携して体験活動を進めていこうとしている。身近な大人と接することで、自分の夢に現実味をもてるようになっていく。
	児童の自主的な活動 ・笑顔であいさつができる子どもの育成をめざす。	・「地域の人や家族、友だちや先生にあいさつをしている」と答えた児童の割合80%以上 →93.8%	A	○昨年度より13.3%高くなり、大きく向上した。地域の方々が、登校時に見守り、あいさつをしてくれている効果もあると考えられる。 ▲「地域に出かける活動や地域の力を活かした活動は楽しい」と答えた児童の割合が昨年度より少なくなった。	・地域の中で子どもを見ていきたい。 ・コロナがあつて行事の中止により、人との交流がなくなっている。 ・核家族が進み、大人と話す機会が減っている。 ・自分のことを開示できない子もいる。 ・地域の自然など、地域教材を生かしてはどうか。	■毎朝、地域の方々に挨拶をさせていただくことで、子どもたちの挨拶の意識も育ってきているように感じる。来年度も引き続き、児童会を中心に年3回のあいさつ運動を実施し、周りの人に笑顔で挨拶ができるような取り組みを行ってみたい。
豊かな心を育む(不登校)	自尊感情の育成 ・子どもたちの活動に「出番・役割・評価」の場や自己の違いや良さを認める場を設ける。	・「自分には良いところがある」と答えた児童の割合80%以上。→74.6%	B	▲「学校は一人ひとりのよさをきちんと認めている」は89%と高いものの昨年の74%であった。良さを認める場を設け、それを積極的に伝える必要がある。 ▲昨年度より2.7%高くなったものの目標の80%に届かない。	・昨年、班の中で友だちのよいところを書きあうという内容の授業を見た。子どもたちの自信につながる活動だと思った。 ・ゲームの世界のような架空の世界の中にいて、現実世界があややな子が多いのでは。 ・会話があれば自分のよさも見つけたい。 ・コロナの中で、大人の都合で体験や経験ができなくなっている。 ・今の現状はなかなか変わらない。今の生活の中で切り開いていきたい。 ・子どもたちは人懐っこい。愛情を注いでいくことが大切。親しみを込めて声をかけていきたい。	■道徳科や生活等の授業の中で、互いのよさを伝え合う活動を計画し取り入れる。 ■帰りの会、通信等で児童のがんばりや学校や学級、友達のために良い言動について道徳伝える。
	道徳性・人権意識の育成 ・特別な支援が必要な子を核とする人権教育を推進する。	・一人ひとりの違いに寄り添った学習支援のあり方を研究するとともに、個別の支援計画を作成・見直しを図る。(支援会議等を年6回以上開催)	A	○必要に応じて適宜支援会を開き、個に応じた支援について考えあうことができた。 ▲個に応じた支援について考え実践したことについての成果や課題を共有し、継続的に支援について考えていきたい。	・昨年、班の中で友だちのよいところを書きあうという内容の授業を見た。子どもたちの自信につながる活動だと思った。 ・ゲームの世界のような架空の世界の中にいて、現実世界があややな子が多いのでは。 ・会話があれば自分のよさも見つけたい。 ・コロナの中で、大人の都合で体験や経験ができなくなっている。 ・今の現状はなかなか変わらない。今の生活の中で切り開いていきたい。 ・子どもたちは人懐っこい。愛情を注いでいくことが大切。親しみを込めて声をかけていきたい。	■支援が必要な児童について、それぞれの児童に合う支援の方法や周りの児童の関わり方などを考えるための支援会議を開く。さらに経過を共有するための会議を持つことで継続的な支援に資する。
安全安心な学校づくり(不登校)	安心できる学校づくり ・安心できる居場所のある集団づくりに取り組む。	・「学校が楽しい」と答えた児童の割合80%以上。→81.3%	A	○昨年度より9%高くなり、目標値を達成した。	・楽しくないと感じている子どもたちのそう思う理由は何か。 ・子どもが主体的に活動できているか。 ・日中か温かく見守っていたらいい。話しやすい環境が整っている。	■一人ひとりの子どもに丁寧に寄り添うことで、子どもが不安や悩みなど、自分の思いを出しやすい環境づくりに努める。 ■日頃の学校生活や行事に取り組む中で、役割や責任、仲間との関わりを持って協働できるようにする。
	いじめのない学校づくり ・いじめの未然防止と早期発見・即時対応に努める。	・「学校は、児童間の人間関係の確保に努め、いじめを許さない仲間づくりに努めている」と答えた保護者の割合(80%以上) →91.8%	A	▲昨年度より1.2%低くなった。 ○学校全体でピンクチャット運動に取り組み、いじめについて考えさせた。 ○「学校では自分や他人を大切にすることを学習している」と答えた児童の割合が昨年度より3.3%増え、95.4%であった。	・楽しくないと感じている子どもたちのそう思う理由は何か。 ・子どもが主体的に活動できているか。 ・日中か温かく見守っていたらいい。話しやすい環境が整っている。	■いじめアンケートを実施した結果も踏まえながら、ひとりひとりの思いや気持ちを伝える機会を設けたり、普段からのクラスや仲間づくりの取り組みをしたりすることで、いじめや人間関係のトラブルの早期発見と早期対応に取り組む。 ■毎月職員会議などで、児童の様子や課題について職員全体の共通理解を図る。
安全安心な学校づくり	防災避難訓練や安全教育等の実施 ・鈴鹿署や教育支援課と連携しながら、年間計画に則って防災教育や安全教育を実施する。	・保護者や地域住民参加型の避難訓練や防災学習会等を実施する。(年3回)→3回(予定を含む)	B	○避難訓練・防災学習会等を実施できる予定。 ○発達段階に応じた安全教育を実施することができた。 ○ONTTなど外部機関主催の教室開催をすることができた。 ▲地域住民参加型の避難訓練を行うことができなかった。	・衛生ハハの避難訓練ができていないことに不安がある。来年度はぜひとも行ってほしい。 ・災害時どのように行動するのか知っておく必要がある。 ・家庭教育としても防災教育は大切。 ・大きな地震が起こるといわれている。実施は必要。 ・この地域に合った防災・安全訓練が必要。 ・これからの社会はネットと切り離せない。ネットモラルを身につけさせたい。	■来年度は衛生ハハへの避難訓練を実施できるようにしたい。 ■この地域の危険性について予測し、対処できるように避難訓練を実施していきたい。 ■交通安全教室を時期をずらすなど実施する。講話だけでなく実技の実施も検討する。

A=達成(関連児童・保護者アンケート項目の結果が80%以上の項目)
B=未達成(関連児童・保護者アンケート項目の結果が50%以上80%未満の項目)
C=課題あり(関連児童・保護者アンケート項目の結果が50%未満の項目)